

1. 目的及び内容

タイワンガザミ資源の積極的な増加を図る目的で放流用種苗の生産を行う。

5月～8月に3回次延べ12面でワムシ、アルテミア、冷凍アサリ、配合飼料等を給餌し種苗生産を行った結果、合計35.3万尾の稚ガニ(C₁)を生産した。取り上げた稚ガニ22.2万尾は中間育成用に、一部は陸上水槽で中間育成後放流用種苗として与那城漁協に出荷した。

2. 方法と結果

(1)親ガニは石川市、沖縄市、与那城村、名護市の漁協から抱卵親ガニを3回次計51尾を購入し、夕方0.5Klパンライトに収容しふ化させた結果、合計1,482万尾のふ化幼生を得た。

(2)幼生の飼育は、屋内50Kl及び100Kl水槽を使用し5月～8月に3回次延べ12面で行った。餌料はワムシ、アルテミア、冷凍アサリ、配合飼料等を給餌し、飼育水はゾエア期が海産クロレラ、珪藻を添加し、10～20%換水、メガロバ期が30～50%の流水で飼育を行った結果、合計35.3万尾の稚ガニ(C₁)を生産した。幼生は主にメガロバ期に大量減耗し、取り上げ時の生残率は19.7～0%、平均2.4%、最高生産密度1,200尾/Klと低く不安定であった。

(3)8月に生産した稚ガニ13.1万尾を屋内100Kl水槽(水量50Kl)に収容し、オキアミを給餌して8日間の間中間育成を行った結果、取り上げ尾数3.5万尾(C₂～₄)、生残率26.9%であった。

(4)生産した稚ガニ(22.2万尾)は中間育成用に、中間育成を行ったカニは放流用に与那城漁協へ出荷した。

3. 残された問題点

(1)メガロバ期の大量減耗。

(2)早期種苗生産・・・天然における産卵盛期の3～5月に種苗生産を行う。